

繪本通俗三國志

二編
八

12
74
8

東 京 圖 書 館				
七 五 冊	20 七 八 號	共 架	二 六 函	和 書 門 小 說 類



繪本通俗三國志二編卷之八

目錄 明治十年交換

曹操殺董貴妃

玄德匹馬奔冀及

張遼義說關羽

關羽白馬刺顏良



人謀及まきむ九族とぐく滅ぶ引牛と殺せと下知せん
人謀及まきむ九族とぐく滅ぶ引牛と殺せと下知せん
を帝かみんぞ宣ひるの董貴妃子と妊んぞ。さで五月
よるが丞相願くはまきとあはせや曹操眼といふらとや
いふ。天子のまきと佐くはまらむを九族とぐく滅べ
。まらむまの女とまきと後の患と送さん董貴妃哭
くとらるる。まき始内は御子と妊りまの子とまき
まきと冷官の果ては後らいつらまの曹操
頭と掉とまらる。你逆賊の種と遺し母の仇と報ら
んこちの叶まら。帝御涙とあま宣ひるの丞相
と殺さば願くは死と全とす。殺せらあまらん苦く目
んとしむとあられ曹操とむら練帛とよりよせ早勅

董貴妃の美人入る
譽をありと天子の幸せられまは。壞妊して五月、あよ
り。まの日帝は伏皇后董貴妃と宮中まきむに董承が
評議し。御座あり。ま下ち曹操劍と帯と生来りたれを
帝胸打撃たま。この怖をまあはの曹操問とや。董
承も謀叛と陛下あるとまきと。帝あま宣く董卓
まきで七びる曹操聲と初や。曰董卓まきむひむ
車騎將軍董承らるる帝まあは怖と宣ひる。朕
まきとまのひらまら。曹操が曰まら。指とまら。血報と書
まきとまきと入る。帝魂天外の飛ぶ御顔土のど。た黙
と御座まら。曹操武士の命と董貴妃と取と引依

と下知されを帝あまりの為方ある。御渡とあり。ごせむひ董貴妃の心うらぐ。你九泉の下よくりあがむ。朕と恨むまると宣ひ入を曹操いふりて立ちあがり。你あま女童のまといふ。余波と借むうと。まきうは武士の命とて官門のわらう列生させ練帛よく勸殺しるるをうたてなむ。そのち官門の番衆とやよ。法と生しとやする。今よりして天子の外戚内族するもの。命と受むしと内よ入るものあが立およ斬殺せむ。你亦と守るべき。同罪を行へばと。と日ある董兼と。往來せしものと逆黨と号しと誅しなむ。科あくと殺せるもの殺しなむ。されたり大少の官人。命耳と傾けと言ひ執ると。曹操又物馴る兵三千人とえ

らんと。御林の軍と号し。曹洪と大将と定め。はね内裏と守る。ま。

玄徳正馬奔冀州

去むと。曹操の董承も千余人と誅し。内裏より回り荀彧とやと。曰く董承もとて滅び。と馬騰と玄徳とあて隠謀の數あり。いかりと伐へば荀彧の馬騰。今西涼州の兵と也ろと。枉く平らげ。口を閉る。送り交りといと。彼を安んず。あて計と。都へ上り。あてむと。殺し。入玄徳の徐州の城あり。持角の勢を張らむ。又容易と。ひらら。曹操は曰く。と。河北の表。兵

うまゝとぞ。浩るあひぐさ時節より。小児の僅ある病まきり
 と。兵起て。能く大なる去り痛し。あ惜まふと。外に生きたま
 を。孫乾のの。著るると。夜と日。迷ぐ。小沛の城より。入
 の。あひ心死と。執り。まきを。玄徳。周樟と。いふ。せんと。議し。あ
 張飛。まき。と。出と。や。なる。あ。ま。こ。も。裏ると。は。其。奇。妙。の。計。と
 の。門。と。曹操。と。打破らん。彼ら。勢。あ。ま。来り。あ。を。こ。ふ。遠。路。を。疲
 と。四。五。日。の。物。の。用。ま。は。ま。味。方。ま。の。虚。を。乘。と。急。ま。あ。よ。せ。敵。よ
 足。と。踏。と。せ。と。陣。場。の。要。害。い。ぬ。調。の。さ。る。ま。乗。と。不。意。の
 び。く。ま。の。あ。る。を。一。戦。し。功。と。あ。ま。人。玄。徳。手。と。う。り。く。が。だ。り。あ
 く。喜。び。ま。き。常。に。你。と。只。血。氣。の。勇。士。あ。り。と。あ。の。ひ。し。く。ま。だ。り
 も。良。計。と。の。ら。ひ。と。劉。岱。と。生。捉。い。ぬ。又。浩。る。不。思。議。の。計。と

出と。你も。亦。兵。法。と。用。の。と。ね。び。と。し。く。曹。操。が。大。勢。ま。の。あ。へ
 よ。せ。と。ま。の。你。が。計。と。の。ど。き。ま。は。逆。寄。は。夜。討。と。敵。の。膽
 と。刺。せ。せ。んと。人。馬。と。調。へ。と。待。の。曹。操。二。十。万。の。大。軍。と。あ。と。漸
 く。小。沛。の。界。は。近。牛。り。る。に。俄。に。在。風。吹。起。り。と。ま。ま。さ。だ。ま。ま。り
 一。面。の。牙。旗。と。折。り。ま。を。ま。づ。く。馬。と。と。め。ま。い。ら。吉。凶。と。う。ら。あ。ふ
 と。試。は。諸。大。將。の。異。見。と。問。は。荀。彧。や。る。の。風。何。ま。の。方。より。吹
 と。又。い。う。あ。る。色。の。旗。と。折。ら。る。と。曹。操。白。く。風。は。東。南。より。吹。く
 角。上。の。青。く。紅。あ。る。旗。と。折。ら。り。荀。彧。や。る。の。あ。ま。い。別。の。事。は。あ。ら
 ば。今。宵。敵。の。夜。討。ま。ると。天。より。告。め。ま。る。の。曹。操。は。ま。も。と。打
 諾。た。り。毛。玠。走。り。来。り。と。や。る。の。さ。だ。東。の。方。より。風。吹。く。と
 たる。旗。と。折。ら。る。の。今。夜。敵。軍。逆。寄。ま。ま。た。る。兆。あり。御。用。心。ま。し

欠

MISSING

んとすまると。嗚の言まやうのひらり。大軍後と取巻るれ。意
退んとすまると。むらう復侯博う。いと蒐り後より復侯淵
追蒐く。玄徳さへ入戦ふとらふ。敵の大勢のあつり。さう
いふ三十騎をうり。討あされ。小沛の城は回らん。この入が敵
や城と乗取とんと掛り。徐州の城へ入んと。河とらふ。て
とらふ。曹操が旗をうら。さう。うら。ある。人馬野は満山は
ふびり。これを玄徳へる。が。路。さう。い。さ。せん。と。案。ド。ら。ん。い。い。
い。哀紹が若戦ふ。肩が。董。の。外。ま。さ。う。ひ。半。と。吃。と。思。ひ。い。
青州の路と志して走りぬる。人を樂進の。と。と。さ。げ。く。士。卒。が
知くと。引包んと。討止んと。と。玄徳ま。う。の。擬。議。と。う。た。馬。の。鞭
打後と。う。へ。り。と。北。と。と。と。走。り。ぬ。る。を。相。促。ぐ。と。勢。と。と。い。い。

失く後よ。い。一。騎。ま。あ。り。ま。の。日。ね。を。の。敵。陣。と。逃。れ。出。三。百。里
の。路。と。池。と。暮。ま。あ。よ。ん。と。青。州。の。城。下。ま。着。ぬ。の。番。の。と。の。た。の
名。と。問。と。ま。さ。う。の。城。ま。報。ド。ル。ま。ま。の。城。ま。う。ね。と。表。紹。が
嫡。子。表。禪。守。り。居。る。ぬ。い。を。だ。む。入。と。事。の。仔。細。と。問。玄
徳。右。の。あ。め。む。た。と。決。り。城。と。破。ら。む。妻。子。と。ま。と。て。ま。の。あ。ま。道。れ
来。ま。り。ひ。と。入。安。身。と。頼。と。な。る。と。と。と。れ。れ。を。表。禪。謹。し。を
禮。待。し。旅。館。と。點。ド。と。表。紹。が。方。へ。注。進。ま。表。紹。の。ま。の。は。と。と。と。
と。つ。ら。五。万。余。騎。と。率。し。半。途。ま。と。出。と。玄。徳。と。北。冀。州。の。城。へ
入。ま。と。と。と。と。表。禪。と。と。と。玄。徳。と。送。と。平。原。の。塚。
い。と。表。紹。廿。里。出。て。待。け。と。と。玄。徳。地。ま。拜。伏。し。と。と。入。ら。表。紹
も。答。礼。し。と。と。先。日。の。小。兒。乃。疾。ま。り。と。救。の。勢。と。と。と。

今日もつひにお相見。平生の望を達せし御心ご安ん
け妻へあつらく御入り入る。あつたかたをいせ。曹操と誅せん。效
徳喜びつた入を孤窮の某曹操ははられ妻子とせ。耻と
へり。来と將軍乃門下は投せ。願くは隣と垂の入と謝れ
れを素紹とひま。つと冀州は回り敬ひ尊ん。毎三の元
色もぞりてつらうらう。

張遼義親関羽

曹操をてふ。小沛の城を攻落し。たつち徐公のへあ。よすり。糜
竺簡雍ぬせ。とあつて。城とせ。て。落行はを陳登内より
門とひら。曹操と引入る。曹操城中に入。陳珪陳登
とり。出。とら。車曹と殺せる罪と責と。と。まの城とをさ。て。

百姓と安堵せし。め。前日の罪と全者とん。と。い。は。ま。の。う。と。
二人ひとく。か。と。な。う。と。百姓と安ん。を。城。中。の。あ。く
ま。ま。の。上。ト。ま。安堵る。あ。の。ひ。と。あ。せ。り。い。ま。い。関羽と。徳
の。妻。子。ま。ま。老。少。と。あ。つ。り。と。ま。づ。う。た。龍。る。ト。邳。の。城。を。う。り
残り。し。ま。ま。と。な。つ。と。堂。の。中。の。あ。つ。と。曹操喜悅の
眉とひら。を。あ。つ。ひ。は。へ。と。殺。せ。る。よ。首。取。ヤ。る。関羽の。尋。常
の。敵。と。あ。つ。と。計。と。あ。つ。と。や。う。よ。ひ。ら。と。あ。つ。と。は。ま。と。素。紹。の。襲
き。入。曹操。と。白。さ。ま。と。あ。つ。と。い。ま。の。計。と。用。の。べ。と。荀。彧
や。る。の。丞。相。の。徐州。の。本。陣。と。居。ら。と。一。手。の。勢。か。と。下。邳。城。に
む。せ。と。あ。つ。と。関羽と。城。外。へ。引。出。し。と。う。と。大。軍。と。あ。つ。と。
その。際。と。取。切。き。と。う。と。城。と。ひ。さ。と。う。と。関羽。足。と。と。う。と。

ろみく。ちのびら。擣とあふ。曹操が白く。この計より。関羽が
男は。たふひ。で。武藝三軍。冠たる。愛さ。な。ひ。の。味方
たも。び。の。あ。い。の。郭嘉。さ。ま。し。と。も。る。関羽。忠
義の。志。を。い。て。ぬ。る。者。き。い。の。思。食。も。降。ま。り。は。し。も。推
し。く。人。と。い。つ。と。利害と。説。し。た。を。入。り。と。の。禍。逢。ん。が。兵
と。ま。ち。と。城。と。圍。と。事。急。あ。る。は。い。つ。を。一。降。ろ。と。い。は。あ。ら。ん。後
遠。く。某。の。関羽。と。一。面。の。交。り。願。く。行。と。降。ら。ん。程。昱
が。白。く。御。辺。丸。と。い。交。り。と。い。は。も。と。羽。と。量。は。あ。る。く。初。と。あ
と。動。う。が。う。る。も。関羽。が。進。退。ま。り。り。と。な。御。辺。行。と
説。む。と。ま。計。と。も。つ。降。ら。ん。曹。操。問。と。白。く。ある。計。と
程。昱。が。白。く。関羽。が。方。夫。不。當。の。勇。あり。と。と。は。玄。徳。と。兄。弟。生。死

の約と誓言の信義をいりて深きものあり。智謀とものいどんを
勝とあ。い。た。ま。玄。徳。が。兵。あ。く。味。方。は。降。さ。り。ま。の。と。い。ど。ん。計
畧とあ。い。と。小。沛。の。城。より。敵。は。追。は。た。る。勢。の。ど。と。い。せ。と。や
邳。の。城。へ。入。り。を。関羽。ま。さ。と。味。方。あり。と。ま。り。と。う。た。が。ま。は。し。う
中。は。禍。と。城。中。は。種。置。と。関羽。が。外。へ。討。と。出。ると。味。方。の
い。ど。ん。は。た。い。り。なり。負。と。も。い。と。し。出。し。と。い。は。精。兵。と。あ。り。と。
と。の。う。へ。る。途。と。横。切。き。と。内。外。より。標。め。せ。と。城。と。乘。取。と。の
後。は。生。取。ん。と。降。泰。と。説。ん。と。も。い。ま。し。と。い。は。曹。操。が
だ。る。喜。び。物。馴。る。兵。十。余。人。の。計。と。い。ひ。や。く。降。泰。の。勢
殺。十。人。の中。は。打。混。と。邳。の。城。は。ほ。つ。い。徐州。小。沛。の。賊。軍。ま。い
し。曹。操。は。追。は。と。途。来。り。と。言。せ。と。ま。を。関羽。計。と。説。ら。ん

むつづのつら御辺と莫多ひむらんを執主よとむひて又桃園の
折言は違ひ主と誤るの身と失ふその罪一あり。往月玄徳妻子
族と御辺は托一そ万金の計ありとを御辺も討死しむる。
妻子一族托不あるらんまは御辺倚托らあゆめよとむひて実の
不義ありその罪二あり。御辺の武藝人勝せよ。又よく短史の
ずり。まゐるよ玄徳と方とあらは漢の天下を扶けそ万民とよ
しとあゆめ血氣の勇とあしと。つづらむ討死し上祖宗の背
に下その主とむつづむ何んぞ義ととて得んその罪三あり。
うのどと三の罪あり。まゐるん告げらん関羽との理責
らむ。まゐるん思案しとやらる御辺は三の罪と説く。此
罪と免まらん張遼が自ら四面とづく曹丞相の勢あり。御

辺も降参せむとの心あらむとあつて討死せむんあまらむと
をまづく曹丞相は降り玄徳の消息とまゐるん。あつてその
あまらむ三の女徳のむらけの入り妻子と守り三の義と
まゐるん。三の身の義とあつて。まゐるんあゆめひの関
羽自ら御辺三の便とら。まゐるん三の願ひあり。曹丞相は
まの願と諸入を。まゐるん甲と却て山とむらるん。又まゐるん
あつて。まゐるん三の罪と受と。天下の人の笑つるとも快くま
のあつて討死と。張遼が自ら曹丞相の寛洪の大度ありと
廣く海のほど。あつて。早くはげゆ関羽が
日一のよ我む。劉皇叔と誓ひ。とあつて。漢を扶けて
天下と中興せんと約せり。まゐるん漢を降と曹操を降と



玄德



公孫
玄德馬と
返して
青州に
奔る

命と恙あらずと。御在野とては兼もつて飛ぶとては地行
 人曹操の位とては丞相の居と一言とつて天下と治むと詠
 りあふが誰の服せん定めと某と止むと甘夫人やされたる九
 と事とて問ふもよむとた事とて耳しやとて行ひて
 関羽心決り叔十騎と率して降りて曹操を討つとて諸
 大将と遠く出むとせむとて關羽まが上るも關羽地上
 拜伏を曹操答禮とて拜しるも關羽やるも敢軍の将ぬら
 く丞相不殺の恩と蒙るもあは答禮と受べんと曹操は自我
 りとて御辺の忠義と志を安んずると害を加へんとてあは
 漢の丞相御辺とてあは漢の臣官位ひととてとて入るも御
 辺の徳と敬ふとたより關羽が曰く張遼もたれりも三ヶ條の願

と諸まことと丞相の大恩あり曹操白く一言とつて四海と
 感ぜんとあは安んずと違背あらん關羽が曰く玄徳の在
 野とては火と踏水と入ると尋行人とて告むとて
 と丞相あはとあはとあはとあはとあはとあはとあはと
 早く尋行人も入るとあはとあはとあはとあはとあはとあはと
 れん御辺の忠義と志を安んずると酒宴とありと持成係る
 地とては平定とれはは日の都へのありたる關羽の二夫人
 車と載ぶと守護と送りゆくも許都のありとて諸
 軍とてぐく營寨を回り關羽の居所と請取るとこの家と
 院とては二夫人の居ゆると内門と羊老たる士卒十人
 と。まはらとてその身の外門とて居たりる曹操が曰く關羽

伴ありて朝に出漢乃天子に見しむる官とありては
 せられけむ曹操をねらひ偏將軍の任に關羽恩と謝
 うりなむ曹操相府の酒宴とありて諸大將とありて關羽と
 上座の精進と上賓の禮とありて持成酒宴果
 うりなむ使とのりて綾錦百匹金銀器物と贈る關羽は
 是と受ていとのりて身用とせばとて二夫人と献りなむ
 曹操いやく敬く三日の小宴五日の大宴馬を乗を金とありて
 馬より下れを銀とありて世にぞれらる美女十人とぞりて送
 りなれども關羽は二夫人の内門に給仕せし金銀段匹は目
 録とて入る庫内に納め置常の三日とて内門へ入る二夫人は
 安否と問をみる礼と夕暮とて感嘆せむといふありて
 せり。

関羽白馬刺顔良

曹操ちやうふるとはくして重んじられども關羽さうは悦ぶる色あり
 りし曹操ある日酒とまきめて持成とらる御辺の著の
 縁錦の袍ありて旧く入るはまき著の人とて兼て長あ
 せありて仕立する錦の袍とありて入るを關羽はまきと受て下被
 とし旧袍とてその入る重んじ坐す曹操さうとやる御辺
 にとそ物を儉約のゆゑ關羽は白く某あんで儉約あふ曹
 操は白く入る漢乃大丞相あり錦袍あんとて事と欠けたる御
 辺は旧袍とて入る著のゆゑ儉約あふは關羽は入る日
 の袍は劉皇叔の賜とてはありまのゆゑ常の表被として

入とと錦の裏をあへて入りばだの日朝に出ると帝あはし
 とと関羽が胸の裏を垂つていさあゆめとと御尋ありの
 を関羽謹々と奏するは臣の長母の御あはれあり
 なるは御覧ありの長母のあはれ腹をたたくは御あはれあり
 せと御覧ありの長母のあはれ腹をたたくは御あはれあり
 笑ひと真乃美長母公ありと宣はるは諸人まはれは
 羽と美長母公と各付る曹操常とありとありと聞羽
 喜ぶとありと恵ひるがあはれ日との回ると送りて門外
 るが馬乃瘦たるといふとやかるの御辺の馬あはれと右の瘦
 とろへると関羽が曰く某肥と身重くひゆいさあ強き馬も瘦
 の曹操左右は命とて一匹乃馬と引出させるとが全身の毛も下

りも赤く眼の垂金鈴のどくあり御辺の馬とあはれと問関
 羽やるは呂布が乗りける赤免馬とひひぬる曹操曰くは
 あり駿社とと騎のあり御辺の馬とあはれと騎のいとと鞍
 と具とあへて入るを関羽再拜と恩と謝を曹操心の中より
 とやかるのありと金銀美女とあへて入る御辺二度も再拜せ
 ると喜ぶと色とあり今馬とあへて入るを再拜と喜ぶと何
 ぞ人といやめと畜類とたつとと関羽やると某す此馬
 の千里の駿良あるとある今幸とて賜るを劉皇叔の行
 末と喜ぶたとひ遠と一日のあひひの馬と馳行んあはれ
 へふと喜ぶいとひかりと打乗回りたるを曹操後悔
 とやまると張遼とやとと関羽とあはれ

入とて錦乃重裏をあへ入り。ほどの日朝は出るとて帝あやし
 こと。関羽が胸の重裏を垂しつゝいふあやむいぞと御尋ありけり
 を関羽謹々と奏しつゝの臣は長母のまじりてあが。丞相重
 なるひのへくろびて包む帝まねらる殿上はあさき重裏を解
 せと御覧あるは長母のあざと腹とをたかきをせむらふあくらち
 笑ひて真乃美長母公ありと宣はせしり。諸人きまはえと関
 羽と美長母公とを各侍る曹操常よあよとあへ入る門開
 喜ぶとあやと患ひつゝある日その回ると送りて門外は
 るが馬乃瘦たるといふやちつゝの御辺の馬あよとと右の瘦と
 とろへつゝぞ関羽曰く某肥と身重くひゆいある強き馬も瘦
 の曹操左右は命とて一匹乃馬と引させしるが全身の毛はよ

りも赤く眼の垂金鈴のどくあり御辺の馬とまはつゝやと問関
 羽やるの呂布が乗りつゝ赤兎馬とてひひぬる曹操曰くまは
 あり駿社よと騎のま。御辺いませりまはよ騎の入とて鞍
 と具とあへ入るを関羽再拜と恩と謝を曹操心の中い
 とやつゝのまはさたみ金銀美女とあへ入る。御辺一度も再拜せ
 び又喜ぶ色とあ。今馬とあへ入るを再拜と喜ぶまを何
 ぞ人といやめと。畜類とたひとぞぞ関羽やるの某す此馬
 の千里の駿良あるとまはつゝ今幸ふと賜るを。劉皇叔の行
 末とまはつゝたとひ遠とむ。日のあひとまの馬と馳行んまの
 へよふり喜びひとひかりと打乗回りけるを曹操後悔
 とやまはつゝと張遼とやとつゝのるを関羽とあへ入る



關羽 曹操の約定 漢の降

関羽

張遼

關羽
曹操の約定
漢の降

坐かう曹操を滅亡とて一に汝浩る廟勝の業と用ひき」て成
 敗を二戦は決せんと一をひる也」も一は藉がけることありは悔るといふ
 ような事」表紹はまことおめでふらうたうの玄德と問とやういふ
 田豊と問とやういふの計畧とさきもいふせんと思ひのる玄德
 の曰され儒者の論あり戦場は臨んで身を怪入ることを思
 うといふら朝夕を送りていふはうは祿を食ひ無用の計と云
 う將軍は人の義を天下に失ふありやんとて表紹はの多きこと
 りぐ意はあがりてはの兵を起しんことを田豊はあつと
 ふと諫む表紹怒るやうの休文をあめんとて武を輕に無
 用の舌を動くことあるは人義を失ふありとてあつれ田
 豊はと諫めよ」某が計事ともちひむいごんをたとい兵を起

一のふとむおとさうの利あるは」といひんことを表紹はのく剣をぬ
 いと斬人と成らまは玄德か」とりて大將を殺さんと軍に出と
 不吉ありとていふことを卒に獄中よとて入置り檄文を作りて
 曹操が悪虚と国中の告知せ軍勢を催促と大將沮授は元
 来田豊と交り深りて彼が罪ありとて獄よりさるとして世
 の中よとて思ひん一門の親類をといへるものや家も財物
 とららちあへんとあつて執事ありとていふ田豊の君を諫めて獄
 にもるをいふことと得む催促に従つて曹操と伐きの軍
 千と利あるは」若幸ひとて利を得が親がわひうあつた
 震かん若打負るあつたは身もいふ死させんも量りかこと
 と打立をいふと決すとかなつたはあつたは表紹はあつた

とくの人顔良を先陣と一と白馬といふをより以て蒐らせると混
 授練めく顔良の勇めざる計畧の大事とまづ先陣を三人に
 任せらるるに。ある人づきとひひるを表紹白らるる各將を汝水
 いひんと量まへん彼軍を口を閉て見物せよと。大軍を
 ずあて黎陽にいひる。と。ほづふ東郡の太守劉延方より都
 へ早馬といふの由を注進まを曹操入らざらうといひ。きり
 軍馬をありめ兵糧物の具を持搬ん。洛中の騒動あへ
 ありと。関羽をよみ。曹操の入らざらうといひ。度の合戦
 といふ某をのりて先手といひ。功を立て御恩を報ひん。
 曹操功を立て彼を去んと。異を今度の戦ひの御辺と考
 せしむる。と。重なり。頼もんと。謝らる。関羽の家

二回りなり。曹操十五万の勢と起。二手は多き。五万余騎
 と率。と。白馬といふ山。松と陣を取らる。敵の陣と。こ
 が渺たる平野。顔良が先手の精兵十万余騎陣勢と。あ
 へといふなり。曹操の驚か大將宋憲。むろの。と。布が
 猛將人まその名をまは馬と。生し。戦。と。あり。ま。ま。
 宋憲攸然と。一と馬。と。鎗。と。ひ。さ。げ。と。馳。向。ひ。日。比。河。北
 といふ。夫。不。當。と。よ。づ。る。顔。良。の。い。ひ。く。の。を。寄。り。勝。負。せ。と。
 呼。り。ら。る。を。顔。良。ま。も。あ。い。と。刀。と。ま。か。し。と。馬。と。ま。り。人。戦。ひ。三。合
 あり。と。宋。憲。と。一。刀。と。斬。と。落。と。曹。操。ま。も。と。人。と。膽。と。い
 や。あ。い。と。大。將。と。感。と。れ。を。魏。統。と。ま。と。生。と。り。顔
 良。と。い。は。る。親。友。と。殺。せ。り。顔。良。の。仇。と。む。ろ。の。曹。操。

るべしと許しぬを魏統喜よん馬に乗あがり矛を取て竟出大
音わげさふいま首を失ふんを争降まと呼りるを顔良兗
角の間答よもあよむ馬をまぐ入つた一刀まきつて落せ曹
操を失ふに難く出で戦ふんといふは保晃まきと出某は
かく戦ふんといふも馬をうひと顔良と二十余合戦ひ力は
まて退ぞおんを諸軍よあ震ひ怕まてままんとさるもの
あるを曹操ひまき引退た二人の大將を討せつるの
内くれひるし程昱下る某一人の大將をまきとて顔良
をまきとぞん曹操白いある人ぞ程昱が白く関羽はあふん
をまきと叶ふのひつと曹操白く関羽功を立を回りに去ると云
ふ程昱の人の思とて程昱が白く丞相の人の重く愛して又

さやどと疑ひのあふん卒まんの用さふん顔良の河北第一
の猛將あり関羽まきと戦ひぬ打勝ひぬあゆ用
ひも打負を疑ひと決してまて入曹操のよと喜ひ急
に使を馳て関羽を招くし関羽はまきとまといとぞ二人人乃
前いつて白馬の戦ひ強くと曹操まきと某と招まてつと
御搬を精てうちむんともを夫人の白く將軍行ぬ
うも皇叔の行末と某の関羽が白く某のひつとぞ
あものあありちつた内は對面させまんとて青龍の偃月刀とい
ひとげ赤兎馬を打乗たち白馬といつてをを曹操がま
起つて入顔良は武勇敵するものあつと二人の大將を討
つりまきとつと御邊を招くとひつたを関羽まの敵陣の

中よりとんと望む曹操酒をたぐひて入るる上り登りて見居たる
 不[○]は[○]年[○]候[○]より[○]報[○]下[○]と[○]顔[○]良[○]い[○]ま[○]討[○]と[○]出[○]たり[○]と[○]り[○]と[○]執[○]人[○]ま[○]き[○]と[○]ん
 れを[○]十[○]万[○]の[○]精[○]兵[○]四[○]方[○]八[○]面[○]旗[○]幟[○]も[○]を[○]ら[○]ふ[○]と[○]立[○]と[○]鎗[○]刀[○]の[○]光[○]り[○]日[○]は[○]堂[○]
 へ[○]曹[○]操[○]嘆[○]下[○]と[○]河[○]北[○]乃[○]人[○]馬[○]い[○]と[○]は[○]壯[○]人[○]ある[○]勢[○]も[○]ひ[○]つ[○]あ[○]と[○]ひ
 へ[○]を[○]関[○]羽[○]ま[○]ら[○]ひ[○]と[○]や[○]ら[○]る[○]の[○]某[○]も[○]ま[○]き[○]と[○]ん[○]と[○]士[○]と[○]造[○]き[○]る[○]大[○]雞
 の[○]ま[○]と[○]「[○]物[○]の[○]用[○]は[○]立[○]ぐ[○]」[○]曹[○]操[○]亦[○]や[○]ら[○]る[○]い[○]あ[○]を[○]と[○]ん[○]の[○]大[○]將
 次[○]第[○]と[○]守[○]り[○]と[○]旗[○]の[○]紋[○]あ[○]ぎ[○]を[○]ら[○]ふ[○]人[○]の[○]虎[○]の[○]ど[○]く[○]馬[○]の[○]龍[○]の[○]ど[○]「[○]関[○]羽
 曰[○]く[○]ま[○]き[○]と[○]金[○]の[○]弓[○]主[○]の[○]矢[○]は[○]箭[○]の[○]ち[○]ひ[○]と[○]あ[○]ん[○]る[○]は[○]血[○]も[○]あ[○]ん[○]曹[○]操
 指[○]さ[○]し[○]と[○]あ[○]を[○]ある[○]旗[○]の[○]下[○]は[○]馬[○]と[○]立[○]と[○]る[○]が[○]顔[○]良[○]あ[○]り[○]と[○]い[○]ひ[○]れ[○]を
 関[○]羽[○]あ[○]を[○]と[○]ん[○]と[○]あ[○]を[○]笑[○]ひ[○]と[○]や[○]ら[○]る[○]の[○]顔[○]良[○]の[○]標[○]を[○]立[○]と[○]首[○]と[○]賣
 と[○]の[○]よ[○]似[○]た[○]り[○]曹[○]操[○]曰[○]さ[○]の[○]人[○]の[○]河[○]北[○]無[○]双[○]乃[○]名[○]將[○]ある[○]よ[○]御[○]辺[○]今

あ[○]の[○]あ[○]へ[○]輕[○]ん[○]ど[○]の[○]を[○]関[○]羽[○]曰[○]く[○]某[○]ね[○]が[○]ら[○]の[○]彼[○]が[○]首[○]と[○]い[○]ふ
 敵[○]の[○]人[○]張[○]遼[○]う[○]た[○]ら[○]る[○]あ[○]り[○]と[○]や[○]ら[○]る[○]軍[○]中[○]の[○]威[○]言[○]は[○]「[○]輕
 ん[○]ど[○]と[○]仕[○]損[○]ど[○]の[○]あ[○]関[○]羽[○]志[○]ぶ[○]く[○]と[○]望[○]を[○]走[○]と[○]赤[○]兎[○]馬[○]と[○]ひ
 ら[○]り[○]と[○]打[○]乘[○]盔[○]を[○]年[○]と[○]鞆[○]より[○]け[○]ハ[○]十[○]二[○]斤[○]の[○]青[○]竜[○]刀[○]と[○]い[○]ひ
 さ[○]げ[○]と[○]山[○]を[○]ち[○]り[○]ま[○]ひ[○]と[○]ら[○]る[○]兎[○]入[○]の[○]を[○]と[○]し[○]も[○]勝[○]わ[○]あ[○]り[○]たる
 河[○]北[○]の[○]大[○]軍[○]その[○]勢[○]も[○]ひ[○]つ[○]あ[○]と[○]る[○]もの[○]あ[○]く[○]香[○]象[○]の[○]海[○]と[○]い[○]ふ
 り[○]と[○]波[○]の[○]ひ[○]か[○]ける[○]が[○]お[○]と[○]く[○]西[○]方[○]へ[○]の[○]と[○]ま[○]き[○]と[○]中[○]と[○]い[○]ふ[○]と
 通[○]ら[○]り[○]顔[○]良[○]あ[○]を[○]と[○]ん[○]と[○]彼[○]も[○]玄[○]德[○]の[○]弟[○]関[○]羽[○]と[○]い[○]ふ[○]と[○]い[○]ひ
 ち[○]と[○]あ[○]り[○]と[○]問[○]え[○]ん[○]と[○]し[○]ら[○]る[○]を[○]も[○]関[○]羽[○]が[○]馬[○]の[○]と[○]馳[○]走[○]た[○]い[○]刀[○]
 とい[○]ふ[○]と[○]落[○]と[○]河[○]北[○]の[○]勢[○]膽[○]と[○]い[○]ふ[○]旗[○]と[○]ま[○]き[○]と[○]鼓[○]と[○]落[○]と[○]敷[○]
 ぐ[○]と[○]走[○]り[○]を[○]も[○]関[○]羽[○]馬[○]より[○]り[○]と[○]顔[○]良[○]の[○]首[○]と[○]取[○]鞆[○]の[○]前



関羽
顔良が
陳



武士どむ女徳とて入来る。女徳とて一も畏る色あり。袁紹は
 むろのてりまきるの將軍たる。ありとて一言とて其を殺
 める。某徐州の敗をてす。妻子一族とて行く方とて
 びとて関羽が消息とて入まらば。天下のあひ顔の似たるも
 あり。又名字のあまじ人もあり。頬の皮ありとて大薙刀とてほ
 る。のかんぞ某が弟のむらびの將軍のむらび。詳らつて
 某と殺しむ。いふある人ぞ袁紹元来る。あまじのあれを
 みの言とて實とて後悔。沮授と責やする。のまあを
 りとて感とて賢人と殺さんとせしむ。のうら女徳
 と座下は精とて曹操を破るる計とて殺する。勿ち一人ま
 と。顔良の某が兄弟あり。とて曹操がたぢ計とて某

孫の打向の。去の仇と報せんと呼ぶ諸人あり。人まを。その人
 身乃長八尺。面は獬のどく。眼の光星のどく。山後の人。文
 醜とて。もあつち河北の名將あり。袁紹あり。喜ぶ。ある
 ありとて。顔良が仇と報せむ。又十の精兵
 と。みやう。とみやう。打向とて。文醜の喜ぶ。たぢ
 黄河とて。曹操が陣あり。沮授あり。袁
 紹と諫め。兵を用ひ。肝要の勝負変化。詳らつて。分
 んと。今より。兵と延津と。官渡の兵と分
 置を。勝と後。過あり。今輕。黄河の
 打渡り。一味方利と失あり。一人も生と回ると。無用の事
 いひ。袁紹の。奴有み。無用の事

と勤るしと。わが兵の心を迷へ。遠慮のさかたへ。あましく。をりて
りやく。しちのら月日を送る。きんちち古の兵は。はる兵貴神速と
いふ。卒に。謙ちて用ひ。ひた。沮授外に出で。長嘆。上。益
其志不務其功。悠々。黄河。吾其。濟。半。と。い。さ。さ。の。ち。ハ
虚病。一。と。出。び。つ。つ。を。玄。德。と。い。ん。で。袁。紹。の。一。を。さ。ら。る。の。其。が。だ
り。あ。た。将。軍。の。大。恩。と。い。ひ。ら。願。う。先。手。と。い。ひ。の。一。の。以。将。軍
の。德。と。報。い。二。の。以。関。羽。の。實。否。と。聞。定。ま。ん。袁。紹。の。の。あ。ま。り。
下。と。い。文。醜。ま。し。と。い。先。陣。の。大。將。と。い。ひ。ま。を。文。醜。の。玄
德。の。ね。ま。の。戦。ひ。の。負。と。用。ひ。の。足。さ。る。人。將。あ。り。た。願。く。と
某。一。人。の。先。陣。を。許。し。の。袁。紹。の。白。の。ま。玄。德。の。才。力。を。裁。ん
た。め。あ。り。文。醜。が。白。さ。ら。る。其。の。勢。と。三。万。引。分。と。玄。德。に。授。け

後陣よとあへて戦かへん玄徳をときひて。とすうら。願をま
と。や。ま。ま。た。た。文。醜。と。い。ひ。三。万。余。騎。と。い。ひ。ち。あ。り。て。い。ひ。の。さ。七。万
の。勢。と。率。し。と。一。陣。と。い。ひ。と。い。ひ。の。曹。操。の。顔。良。を。討。取。と。す。り。
い。ひ。関。羽。を。重。ん。で。壽。亭。侯。に。封。せ。し。と。帝。は。奏。し。て。印
と。鑄。せ。せ。張。遼。に。使。と。し。と。は。ら。や。ら。ま。い。関。羽。再。拜。し。と。印
と。い。ひ。と。壽。亭。侯。之。印。と。い。ひ。と。い。ひ。の。辭。し。と。や。ら。る。の。其。い
ん。ど。浩。る。高。官。と。受。と。し。と。得。ん。張。遼。の。將。軍。顔。良。と
討。取。と。希。代。の。功。と。い。ひ。と。い。ひ。の。入。の。封。賞。の。り。あ。ま。り。の。辭
し。と。い。ひ。と。再。三。と。い。ひ。と。受。び。の。し。と。い。ひ。の。右。の。ま
り。い。ひ。と。報。の。曹。操。と。い。ひ。の。思。案。し。と。や。ら。る。の。関。羽。の。印。と
見。と。の。後。の。辭。し。と。張。遼。が。白。の。某。の。印。と。渡。し。と。い。ひ。の。關

羽す印と見ゆ。再三言ふべし。かく辞し受ひて曹操謀す。とや。たつたれ。殺りあり。その印と鑄む。とや。漢壽亭侯之印といふ六字と刻し。再び張遼と持せ。遣や。其を関羽と見ゆ。打笑ひ。丞相す。とや。とや。再拜し。受たり。其。浩る。早馬到来し。袁紹が大将。文醜といふ。黄河と渡り。延津まで。攻入り。と報り。曹操まづ入。遣り。その辺の百姓を西河とらひ。移さ。兵を引。打出る。途中。下知と傳。兵糧の車と先。と入。軍勢。いま。後より。来。とら。呂虔を。問。今。俄。兵糧。輜重と先。と。曹操。曰。兵糧と後。と。と。と。敵。掠。の。先。呂虔。曰。

敵は向より攻む。兵糧と守る。と。曹操。打笑ひ。別。計。あり。敵。きた。期。臨。行。と。ひ。呂虔。曰。怪。思。ながら。輜重と先。と。延津まで。追。入。走。り。来。り。敵。の。大将。文醜。大勢。兵糧。と。味。方。の。勢。車。と。敗。北。せ。り。と。告。げ。諸。大。将。と。斯。あ。り。と。白。馬。の。難。慮。支。入。と。曹。操。自。後。陣。備。へ。る。の。よ。敵。勝。又。乘。ぶ。と。の。兵。糧。と。捐。置。河。より。北。む。敵。の。回。る。路。と。横。切。入。と。射。取。と。兵。と。下。知。と。文。醜。と。立。ら。ぬ。と。曹。操。大。喜。と。南。有。る。早。馬。登。り。と。

新編通鑑綱目卷之九

三十五

不^ら漢^の乃^も壽^亭亭^侯関^羽と書^{たる}旗^をと^さし^て。十^騎餘^り引^{たる}大^將
出^来り青^竜刀^と打^振り賊^將を^斬り首^をと^りて^四言^りを^文醜^と
馬^をと^り入^りて。二^三合^戦ひ叶^とと^りお^もひ^ん引^回り^て走^る。関^羽
赤^兎と^鞭と^く入^り追^付り後^すの^文醜^が首^をと^りて^曹操^を
阜^の上^{より}ま^さと^りて^鼓と^打鑼^と鳴^し大^軍と^蒐り^攻下^る
の^河北^の勢^が大^將と^討て^とあ^らう^の株^をと^りて^逃走^り
と^黄河^乃流^れ溺^を死^{する}と^の殺^すと^りて^女徳^の三^万
余^騎と^後陣^をと^あり^居め^ひが^士卒^をと^りて^走り^入り^又
頬^の皮^をと^りて^鬚の^をと^りて^大將^文醜^が首^をと^りて^切り^て言^ひ
馬^をと^りて^岸の^辺に^蒐り^て向^て望^みて^黄河^を阻^て一^獲
の^勢性^を来^り飛^ぶと^り左^に突^き右^に撞^き河^北の^大勢^をと^りて^斬

と^迴る^諸軍^をと^あり^文醜^と討^てり^しも^あり^と告^ぐを^女
徳^とと^りて^漢の^壽亭^侯関^羽と^書たる^旗を^とり^出せ^り
り^とと^りて^弟ま^とり^曹操^が勢^が勝^つの^ゆに^河を^わ
念^ひ隙^を付^てと^あり^しと^曹操^が勢^が勝^つの^ゆに^河を^わ
たり^と攻^めり^しと^小勢^をと^まり^とあ^りし^とと^曹操^が勢^が勝^つの^ゆに^河を^わ
と^りて^十里^をと^り走^りて^袁紹^が勢^が勝^つの^ゆに^河を^わ
の^官渡^をと^りて^郭図^を審^配二^人を^たび^軍を^女徳^と
の^弟関^羽と^文醜^と斬^りたり^と告^ぐを^袁紹^が怒^り大^軍の^賊
賊^をと^りて^女徳^と引^出し^と斬^りと^女徳^と
徳^とと^りて^願ぐ^に一^言と^述て^死ん^曹操^をと^りて^殺
く^某と^怖る^某徐^とと^落と^{將軍}を^身と^寄曹^操ま^とり^と



藤夫人

八

きいそカとあつせと都と攻んとしと患ひ関羽は顔良文醜と討
 せ將軍の御心とつらせと。某と殺さんとする實あり其へ
 將軍の恩衆とあつせと。野心とすしと。將軍の
 將軍とすもひな人とすもなれを袁紹は心解と敵
 んぞ。座上は請とすも。あつせと。御辺と害せと。忠賢の名
 と天と。得んとすも。女徳とすも。將軍寛洪
 の恩徳其いかにと報せると得ん。物馴たるものと使とすも
 とすも。関羽の方へ書簡を送りと。某とあつせと。彼ら
 あつせと夜を日と。継ぎまわると。あつせと。力とあつせと。先手
 の大将とすも。曹操を伐とすも。顔良文醜が仇と報せんと袁紹
 某とすも。関羽を討とすも。大将とあつせと。得んを

顔良文醜が再び生たるは勝る。早くは招かぬと。兵と武陽
 とつらせと。退けと。要害の陣とは。

関羽遺書辭曹操

曹操とすも。文醜と討と。袁紹とあつせと。復候とすも
 と官渡と守らむと。身は都へつらと。慶賀の酒宴とは。関
 羽が手柄と称賀と。後呂虔とあつせと。延津の戦
 の兵糧武具の車と。先陣とあつせと。敵はかたし奪はせると。是
 とあつせと。敵と釣る計あり。たが昔一入とすも
 とあつせと。諸人との論は服と。早馬到来
 と。汝南は昔巾の余黨劉辟龔都とつらと。二人兵とあつせ
 と。乱とあつせと。曹洪とあつせと。戦ふとつらと。利と失とあつせと。

都を回りて守護せしむ。汝南にきたり再び
 女徳を見ゆると其のついで告げしむ。汝南に
 敬馬笑しやうる。汝南にきたり再び
 夜を日よはしく馳行し。顔良を醜く伐
 袁紹のついで生せん。孫乾が白く其ま
 河北を行く。事ろ体と探りかき孫を將軍に報せし。関羽
 女徳を二度あつと得た。たひ死せし根あひし。ま都
 曹操を暇と請日夜とまら。馳きたる。御辺を
 河北の虚實を窺ひ半途に出く。待めんと。孫乾
 送り出しける。于禁樂進の体と。中よあや。ま
 辭み出さば。日曉天は関羽兵と。龍興都

陣に馬と出し。主よむく。匹夫を争く。首をと。四言の関羽
 大音あげや。鼠輩とたり。朝廷よ。何と。ま
 と主よむく。龍興都が白く。女徳を。袁紹を。你
 久の曹操を扶くる。あ。関羽を。刀を。や
 討つ。龍興都一戦。龍興都。御辺を。ま
 後と。故主の恩忘る。御辺を。ま
 汝南乃城を讓り。関羽の意を快く。
 兵を。劉辟。龍興都。走り
 四角八方に落失。関羽及郡を治む。都を回。曹操
 城外に出。酒宴を。請軍を。持成。関羽
 家。甘夫人問。將軍外に出。

新編通鑑三國志二卷之八

四十一

とあゆひ煩ひ起居よる安らふまじきものとな曹操のさごとく玄徳
 の河北に居るよよとまきまのなきを関羽が出去るもあまへし
 と張遼とあゆむの体と探りまじし「ひ関羽を憂ひ悶々坐する
 不み張遼の来り御辺よのあひと玄徳の消息とあまふと
 羨むりや御賀とやまといひなきを関羽やんといひ故主よ
 對面せむあんる喜ぶるゆゑん張遼が曰く御辺常は春秋と
 讀むる管仲と鮑叔と古の交態とありまけん頼る熱りも関
 羽が曰く管仲のりり吾三戦三退鮑叔不以我為懦知
 我有老母也吾嘗三仕三見逐鮑叔不以我為不肖知我不
 遇時也吾嘗與鮑叔談論身極困乏鮑叔不以我為愚
 知時有利不利也吾嘗與鮑叔賈分利多鮑叔不以我

為貪負知我貪也生我者父母知我者鮑叔といりまきま
 ち二人の交あり張遼が曰く御辺と玄徳との交如何ん関羽
 が曰く玄徳と生死の交とむまけん生ると死ん同く生死と死ん
 同く死も管仲鮑叔が類らるるまけん張遼が曰く御辺と
 りまきとの交如何ん関羽が曰くまけん御辺と邂逅は相交る吉凶相
 救ひ患難相扶く力らるるまけん至りてのねらち止る
 どまけん玄徳とろ交は比せん張遼が曰く玄徳をよ小沛に利を失
 ひまけん御辺あんど命とまけん戦ひまけん関羽が曰くまけん玄徳
 の生死とまけん「玄徳死せばまけん生んや張遼が曰く今
 玄徳の河北に居るよ御辺行くと尋むり関羽が曰く昔日の言
 々まけん何んぞ負とあけん御辺まけん違ひ相告ぐ我



とを明白去とるも明白よとて。御辺まの回りと。まのあはれ
きを傳ゆ入るまのあはれとて曹操と暇と請ふ。二夫人と中護下
と回る人。陳震が白く曹操は「許とんをいへん。関羽が白くま
るまの命ととて入るんとて入るまのあはれとて。返簡と調へ
と。玄徳は答ふの書は曰

羽切聞義不負心忠不顧死是大丈夫之志也羽
自幼讀書。夙知禮義。至下觀羊角哀左伯桃
之事。論張元伯。范巨卿之約。未嘗不三葉而流淚也
昔羽守下邳。內無積粟。外無援兵。欲盡死節。奈有
二嫂之重。未敢斷首。捐軀。死于溝壑也。近自汝南
方知。信息。須當面辭。曹公奉送二嫂。叔也。昔日降

漢時己曾預言。今己有微功之報。不容不從也。
忽得兄書。視之如夢。羽但懷異心。天地可表。披肝
瀝膽。筆楮難窮。誓拜有期。伏惟昭啟。金。

陳震返簡と得て回りて。之を関羽に白く。丞相存心行曹
操と暇と請んとする。曹操兼て。関羽が来んとて。量門
と廻避牌と掛入。入とて許さまの牌とかり。家とたわいら
ある大事ありとて。内へ入るまの法まきを。関羽はあ
回り。一白く旅装と催。自餘乃て。一人を用む。は
り小沛より。従ひ来るもの。二十余人。夫人の車と推せ
て。打立。て用意とあり。甘夫人問て曰く。將軍の命を打立
るを。関羽が白く。朝夕乃ありとて。あり。此は曹操があはれ

維新通倫三國志二卷之八 四十一

群生而成三綱五常之義也羽生于漢朝少事劉
皇叔誓同生死前者下邳失據許降丞相所請
三事已領恩諾羽所以報焉按擢過望實難克
當今探知故主劉皇叔見在袁紹軍中身為寄
客使羽且夕不安三思丞相之恩深如滄海及念
故主之義重若丘山去之不易住實難事有先後
當還故主尚有餘恩未報候他日以死答之乃羽之
志也謹書告辭幸希鈞鑒建安五年秋七月狀
上

関羽千里獨行

曹操の関羽を出去し、さきを魏大將と政事を議し居たり

忽ち関羽を使さうと書簡を贈り来さう曹操いと
ひかたんとおのの外の驚か関羽まで出さうといふ北
門の番兵あつて走り来り関羽いふ是非あつて推
通り一輛の車を守護し二十余人北に落行たり
と注進ととたふ又一人来り関羽夜に明方金銀
段匹と庫内を封し壽亭侯乃印を遺し置十人の美女を
内室にとおぼしめし跟へきたる二十余人乃士卒と引家
と出で落行し満座を與と醒とる猿臂將軍蔡
陽と出で出さう其結ぶ五子余騎と引関羽生
捉きたる曹操が白く主事と本とを直天下の
義士来るを明白去して明白を天下乃丈夫たる

ホもまことと千本よせよと。蔡陽と叱り退く。程昱がくつ。関羽、丞相と暇と請む。まこと大なる無禮あかむ。曹操曰く、波意乃まこと故主よ取しめくとの忠義と全せしむ。程昱曰く、まことと味方なり。諸将よま不平の意あかむ。曹操曰く、ある仔細ど。程昱曰く、関羽よ大なる罪三あり。昔日下邳の城よ。彼が事の急あると。丞相降りと。偏將軍の封せらる。三日よ小宴五日よ大宴。馬上と金と與へ馬より下と。兵銀と與へ。功ありと。又壽其侯の封せらる。その恩に榮至極せらる。まこと一旦丞相とまこと去その罪一あり。丞相の命と受む。飄然とく打出る。のこす北門の番衆と斬んとせらる。まこと國法と犯すその罪二あり。故主のまことある恩とあかむ。丞相の大恩

とまことと。女書信間を送りて。鈞威と冒さる。その罪三あり。今彼と許し。袁紹よ取せしむ。虎とまこと人を食し。まこと。まこと。蔡陽が望のまこと。追蒐と伐し。ある。曹操曰く、関羽よ。まこと。三條の願と約し。玄德が在呼とまこと。まこと。暇と請む。と。出まんと入り。まこと。今とまこと。まこと。追蒐と殺し。まこと。人のまこと。信義あかむ。とせん。彼おのく。まこと。主のまこと。追とまこと。程昱曰く、関羽告む。と。打出る。國法と背く。まこと。まこと。まこと。措む。まこと。治め。曹操曰く、彼がまこと。まこと。六七度まこと。府中へまこと。廻避牌と掛入。と。許さむ。まこと。與へ。金銀と。一を私よまこと。

らむ事トの故トあり人ト獲ト違ト日ト。諸人トも御辺トと追トんと今トも。
 丞相トと完トせしむと宣トひて。いまトのころ来トりし御辺トと追トんと其忠ト。
 義トと完トせしむと宣トひて。いまトのころ来トりし御辺トと追トんと其忠ト。
 侍トり入ト関羽ト曰ト丞相トを大勢トと引トて来トりし。願トふはな
 一騎トありし。戦トひて討死トせんと。馬トと引トて入トり。曹魏トは橋の上
 侍居トたり。良トありし曹操ト五六騎トと率トて馳トきたり。許褚ト
 徐晃ト干禁ト李典ト輩トととぐり跡トはたぐ。関羽トは青竜ト力トをひ
 のさげと橋の上トに立トると。曹操トは將トと馬トより下トりて
 関羽トをトまきとんと。甲トを被トて武器トを持トておけり。
 関羽トはト伐トん為トとて安トんがた。曹操トは問トてやん。將軍トあると路トととどなる。関羽ト馬上ト

禮トとありし。其往ト日ト丞相トを三トの望トと請トたり。幸トひは許
 容トあり。今故主ト河北トあり。袁紹トは寓トあり。早トく
 行トんとささると。相府トに入トると。書トを遺トて。鈞
 威トと冒トす。願トふは丞相ト昔日トの一言トを。曹操トは曰ト
 天ト下トの宰相トある。一言トの信トと違トむ。前ト日トの言
 と。將軍ト乃ト遠トく出トりて。送トりて。路トの費トと助トん
 たり。黄金トと錢トと。関羽トは其志トを。丞相トの恩賜トと
 か。途ト中トの用意トあり。願トふは。曹操トは。將軍トは
 分トち施トし。曹操トは曰ト。寸志トと表トす。為トあり。又トの
 將軍ト乃ト大功トと。謝トせんと。関羽トは曰ト。其志トは
 丞相ト乃ト大恩トと。感トむ。此トの功勞トを。報トむると。得トる他ト日ト

關羽二夫人と
尋て廖化と
遇ふ



廖化



關羽

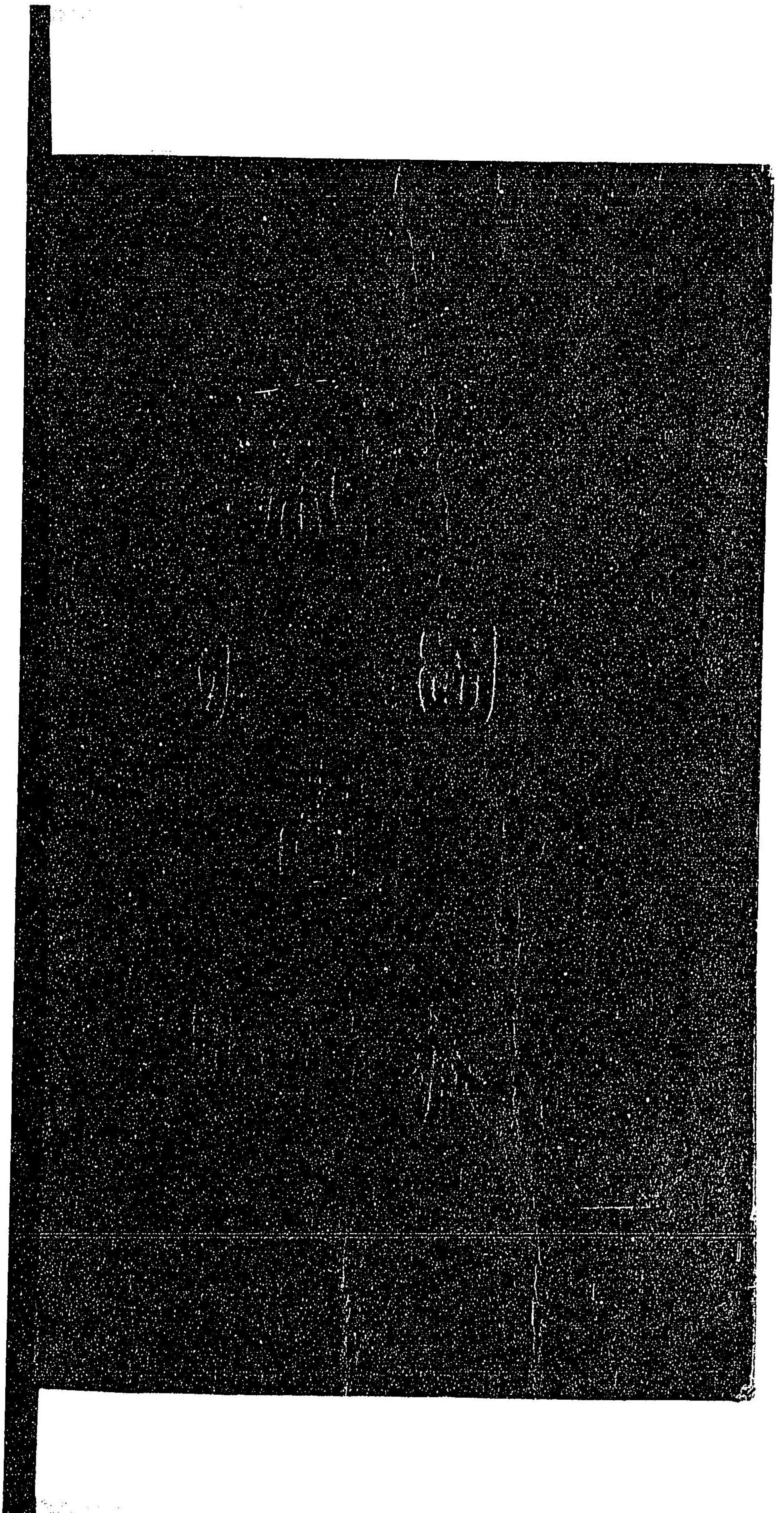
廿坪水再遇別々餘恩と報ぐ。曹操もあつたやうに、將軍
の中心義なり。士を因縁うもつて中道に別るまの二領錦
袍のまを送別乃誠とあらざる人爲ありとて。傍ある大將命
とて。赤地の錦の袍を両手に捧ぎ贈らせけり。関羽の
中より「計をわあんとあめひ馬の上より。雄力をは」のべ
切先、掛と請取肩を打かけ。丞相賜袍の恩をかみり
とらふ。馬をひかへ北とさし去けむ。許楮のめとす
る。此人をぬぐ無禮あり。追蒐と生取。曹操曰く。彼
た一人もさつ二十余人あり。何ぞ疑ひらふ。あつたやうに
み言をせり。あつたやうに信ふ背と。追とあつれと。あつたやうに都
の回りの路をさかす。諸大將もあつたやうに。你はす

く関羽が志し。致す萬世の其名と傳よとせやう。関羽の時
刻ははつと。夫人の車に入りて。馬を打つ。三里あり。乗り
しうと。車を行方とせ。公あつたやうに。馬を打つ。山を打つ。と
望む。谷と滿と。雲長はあつたやうに住ま。呼ぶ。あつたやうに
とせ。関羽いふ。あつたやうに。年がわら。二十をうり
ある大將。黄巾の首とせ。錦の袍を著と。歩卒首
余人と從へ山を下り。馳近付。関羽大音あび。あつたやうに。か
き。呼ぶ。と問ふ。彼人馬すとび。あつたやうに。鎗とせ。地と
拜伏と。関羽許りの計あつたやうに。あつたやうに。名字とせ
えんといひ。あつたやうに。彼人谷とせ。あつたやうに。某の本襄陽乃。廖化とせ
元儉とらふ。あつたやうに。天の乱と。避と。江湖乃。あつたやうに。流浪

王植^{おうしつ}のあつあつと。従事^{じゆじ}官^{くわん}たり。將軍^{しやうぐん}にあつひまろ路^{ぢよ}と通^{とほ}む。願^{ねが}くへ思^{おも}ひ息^{いき}が方^{かた}へ書^い簡^{かん}と傳^{つた}へてかひきといひきへ関^{かん}羽^うを去^い。簡^{かん}と請^こ取^と又^{また}終^{つひ}霄^{せう}都^とまで曹^{そう}操^{そう}が禮^{れい}待^{たい}せしことと詰^つる。胡^こ華^か感^{かん}嘆^{たん}しとくやむ。夜^よまであつ明^あく。慇^{いん}懃^{ぎん}の朝^{あさ}餉^{くわう}とまてり。関^{かん}羽^うやがと二^{ふた}夫人^{ふじん}と車^{くるま}を請^こふ。胡^こ華^かを別^{わか}きと洛^{らく}陽^{やう}とさし進^{しん}發^{はつ}と

繪本通俗三國志二編卷之八終

22
74
28



22
74
28

繪本通俗三國志

二編

八